

第二回明治神宮競技大會報告書 内務省

第二回明治神宮競技大會の組織計畫其の經過各競技

編纂者

序

本書は第二回明治神宮競技大會の組織計畫其の經過各競技の記録、寫眞、及各競技に就ての斯道専門家の概評を蒐録したるものである。

其の編纂に當ては、過半を各競技の概評を以て充す等、只に大會の關係者のみならず、特に一般の人々に興味あるやうに努めた。これ偏に各競技關係者の援助によるもので、茲に特記して謝意を表する。

大正十五年六月一日

内務省

第二回明治神宮競技大會報告書目次

題字 寫眞

(一)、第二回明治神宮競技大會の計畫、組織..... 一

一、準備及計畫..... 一

二、競技大會一覽..... 六

三、各競技大要..... 七

四、開會式..... 四

五、台座の宮殿下..... 九

六、競技大會收支一覽..... 一〇

(二)、各競技部の準備、計畫及經過..... 一〇

一、水上競技..... 一〇

二、アンソエーション・フットボール..... 一四

三、ラグビー・フットボール..... 一四

四、ホッケー..... 一六

五、ヴァレー・ボール..... 一〇六

六、バスケットボール..... 二二

七、陸上競技..... 二六

八、青年團競技..... 三六

九、柔道..... 三三

十、剣道..... 三三

十一、弓道..... 三四

十二、相撲..... 三四

十三、野球..... 三五

十四、庭球..... 三五

十五、端艇..... 三六

十六、馬術..... 三六

十七、射撃..... 三六

十八、マス・ゲーム..... 三六

(三)、競技記録..... 三六

(四)、各競技の感想と概評..... 三六

一、水上競技の概評と感想..... 三六 杉本 傳 三六

二、アソシエーション・フットボール..... 三六 岸本 武夫 三六

三、ラグビー蹴球の概評..... 三六 永井信二郎 三六

四、ホッケー競技の所感と概評..... 三六 小口 孫六 三六

五、ヴァレー・ボール競技の概評と感想..... 三六 三橋 義雄 三六

六、バスケット・ボール競技の概評..... 三六 薬師寺 尊正 三六

七、陸上競技に現れた大收獲..... 三六 渡邊 文吉 三六

八、青年團柔道亂捕試合を顧みて..... 三六 村上 邦夫 三六

九、弓道競技の概評と感想..... 三六 村尾 圭介 三六

十、剣道試合の感想..... 三六 菅原 融 三六
森田 文十郎 三六

十一、野球の戦績と其の概評..... 三六 蘆田 公平 三六

十二、硬式庭球の戦績を顧みて..... 三六 針 重敬 喜 三六

十三、軟球競技の概評と印象..... 三六 久保圭之助 三六

十四、端艇競漕の感想と概評..... 三六 宮木 昌常 三六

十五、馬術競技に對する所見..... 三六 湯川 忠一 三六

十六、馬術競技審査に關する所見..... 三六 神代 菊雄 三六

- 十七、御道試合に對する一般の意識及希望.....帝國在郷軍人会本部：栗
十八、射撃競技に對する概評及感想.....河本 順助：栗
十九、マニゲームに對する概評.....松原 一彦：栗

野球の戦績と其の概評

蘆田公平

中等學校爭覇戦 第一日(十月三十日)

高松商業對柳井中學(早大球場)

雨後のため運動場の使用如何が氣づかされたが時日もない爲押しして決行する事とし時間は豫定より後れて午前九時四十分有田、水室兩氏の審判にて試合は開始された。内務大臣病氣のため代理依政務次官の始球式が此の大會の幸先を祝つた。新進柳井がどれだけ高松を苦しめるか見物である。

經過

第一回(高松先攻) 一死後本田宮武續いて安打せしも井川の二匁宮武を封殺して惜しくも無爲。

(柳井) 一死後福田安打に出で二壘を盗みしが松村三振し福田も三壘を盗まんとして刺さる。

第二回(高松) 一死後水原四球に出でしのみ。(柳井) 三者凡退。

第三回(高松) 兒島三壘を襲ふ安打に出で、堀の犠打に送られて好機至りしも本田三振宮武中堅に飛球を打ち上げて得點に至らず。

(柳井) 一死後四球に出でし久甫、敵矢と盜壘に三壘に至りしも後援なし。

第四回(高松) 井川、遊三間の安打に出で續く多胡左翼を抜く二壘打に三、二打をしめ、水原とのスクイズ成功して井川、生還、川津のバントは多胡を本壘に憤死せしめ三木死球に出でしが兒島捕手前のゴロに死して柳井危機を脱す。

(柳井) 一死後杉田屋安打に出でしも後者空し。

第五回(高松) 一死後宮武SSの失に出で井川、多胡續いて四球を利して満壘、水原のSSゴロ、遊撃手一壘に悪投して宮武生還、井川續いて本壘に入らんとして一壘よりの送球に刺さる。

内務省主催神宮競技大會
野球記録表 (大正十四年十一月)

チーム名	高松商業	攻守順	先攻	14年10月30日	於	戸塚球場	審判	球墨	有水	田道		
選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	+		
1	兒島	1	1-3									
2	堀	2	S.O		1-2							
3	本田	3			S.O							
4	宮武	4										
5	井川	5										
6	多胡	6										
7	水原	7										
8	川津	8										
9	三木	9										
合計			0	0	0	1	2	0	2	0		
二重投	打撃率	守備率	投手名	回数	失打	四球	死球	三振	暴投	W-P	投球数	捕手名
多胡	0.229	0.949	宮武	9	0	5	4	0	8	0	121	多胡
三重投												

チーム名	柳井中學	攻守順	先守	試合開始	午後9時45分	試合終了	午後12時	試合時間	2時間15分	記録者	山崎	
選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	+		
1	加島	1	F-9									
2	藤田	2	2-5									
3	松村	3	S.O									
4	杉田	4										
5	田中	5										
6	松本	6										
7	清水	7										
8	久甫	8										
9	宮村	9										
合計			0	0	0	0	0	0	0	0		
二重投	打撃率	守備率	投手名	回数	失打	四球	死球	三振	暴投	W-P	投球数	捕手名
清水-松本-加島	0.167	0.891	清水	8	0	9	4	1	5	0	139	松本
三重投												

概評

要するに極めて順當の勝負であつて、柳井が大敵をあれだけに食ひ止めた奮闘振を賞すれば足りる。チーム全體の眞面目な態度は將來の多幸を思はせて嬉しい。高松は流石技術は一段上であるが夏に比すると何となく元氣がなかつた。宮武の球の威力も夏程でなかつた。一つには土地慣れぬ爲、一つには夏の優位校だと云ふ自覺が堅くさせたのであらう。

- (柳井) 劈頭松本三壘を過らして出で清水のバント、久甫の遊ゴロに三壘に達せしも宮村投手ゴロに倒れて得點なし。
- 第六回(高松) 川津右翼に安打し三木の犠打に送られ兒島四球を利せしも後者凡退。
- (柳井) 二死後松村四球、杉田屋、右翼に安打せしも田中凡死して得點なし。
- 第七回(高松) 一走者を出せしのみ。
- (柳井) 二死後清水中堅安打に出で宮村の二壘手悪投して生きしが島右翼に飛球を放ちて無爲。
- 第八回(高松) 一死後三木内野安投に出で兒島SSの失を利せしも次の二者外野に飛球を放ちて敵野手の功に歸せしむ。
- (柳井) 四球に出でし二者共に盗壘に倒れ強打者杉田屋三振。稍あせり氣味なり。
- 第九回(高松) 一死後井川安打を左野に放ちしが次打者共に三壘手に功をなさしめて代る。
- (柳井) 二死後清水憤然左翼にヒットして出でしも久甫二振して遂に新進柳井の奮闘も空しく終りぬ。

強打を以て鳴る神港の雄と意氣を以て立つ東都の豪とは誠に伯仲の好取組。昨夏の甲子園以來大會毎に必ず顔が合つて、しかも最近神港二回續けて敗退して爲に折角の雄圖をはぐまれたのである。神港は石にかちりついても勝たねばならぬ、早實は土地つ子今夏的好成绩に甚だ氣をよくして昨年通り神宮競技の榮冠をと志して居る。興味は彌が上になして來る。俵政務次官代理鈴木參與官の始球式があつて午前十一時九分神港の先攻に試合は開始せられた。球審湯淺氏壘審谷澤氏である。

經 過

第一回（神港） 小梨劈頭四球を選び、つゞく島右翼越の三壘打を放つて小柴生還幸先願るよし。強打者山下中堅に大飛球を送つて犠飛となり島生還、更に久保の安打ありしも入らず。

（早實） 牧口2B越安打に出でしも山田の二匍に封殺され以下凡退。

第二回（神港） 神崎の安打ありしのみ。

（早實） 三者凡退。

第三回（神港） 二死後山下死球に出でしも後援空し。

（早實） 憤起し一死後榮崎四球に出で牧口の三匍に封殺されしも山田右野に安打して走者三、二壘に據り、高橋の三匍壘手

惡投して牧口、山田湧躍生還、同點となる。

第四回（神港） 久保2B安打に出で岡の犠打に送られしも續く二者凡死。

（早實） 三者枕をならべて飛球に死す。

第五回（神港） 三者凡退。

（早實） 二死後牧口安打し二盜の際捕手高投して一舉三壘に至りしも山田二匍に倒れて得點に至らず。

第六回（神港） ベーブ山下、左翼越の大三壘打を放ち町田の死後、久保とのスクウキズ成つて生還。一點を勝ち越す。

（早實） 高橋遊三間を貫いて出でしも以下三者凡退。

第七回（神港） 一死後濱崎安打に出で榎本右飛に死せしも小柴中右間に三壘打を放つて濱崎生還。意氣大いになる。

（早實） 佐伯死球に出でしのみ。

第八回（神港） 山下再度三壘打を中右間に放ち町田の二匍壘手失するひまに生還久保の三匍小林失し、岡の二匍に送られ、池

田のバントに町田生還、二點を加へて大勢定まる。

（早實） 山田奮然として遊撃に安打せしも高橋の死後七里の投手ゴロに封殺せられ、七里は投捕手失に二壘を得しも、小林の左翼安打に一舉本壘を衝き野手の好投に惜しくも刺さる。

第九回（神港） 更に攻撃の手をゆるめず、一死後小柴三壘失に出で島の遊捕野手惡投して走者三三壘に據る。つゞく山下、町田四球を利し小柴押し出されて生還。

内務省主催神宮競技大會

野球記録表

(大正十四年十一月)

始球式 鈴木内務大臣

チーム名稱		神港商業		攻守順		先攻		14年10月30日		於駒沢球場		審判		湯谷																
現塁	三塁	四死球	得点	三塁打	二塁打	安打	打数	失策	補殺	刺殺	選手名	一	二	三	四	五	六	七	八	九										
1	0	0	1	0	2	0	1	4	2	1	小 柴	1	1 ₁		1 ₁	2 ₁		1 ₁		1 ₁										
1	0	0	0	1	1	0	1	5	0	0	島	2	1 ₁		2 ₁	3 ₁		3 ₁		3 ₁										
2	0	0	2	1	2	0	2	0	0	10	山 下	3	1 ₁		1 ₁		1 ₁		1 ₁											
0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0	町 田	4	2 ₁		3 ₁		1 ₁		1 ₁											
3	0	0	0	1	0	0	0	2	2	4	久 保	5	1 ₁		1 ₁		1 ₁		1 ₁											
0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	岡	6	3 ₁		1 ₁		3 ₁		1 ₁											
0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	池 田	7		1 ₁		2 ₁		1 ₁		1 ₁										
0	0	1	0	0	1	0	0	2	2	4	濱 崎	8		2 ₁		3 ₁		1 ₁		3 ₁										
0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	榎 本	9		3 ₁				1 ₁		2 ₁										
7	0	3	4	5	7	0	4	0	4	8	32	4	15	27	合計	2	0	2	0	2	0	2	1	3	1	4	2	6	1	7
二 塁 数		打 数		守 備 数		投手名		回数		失 誤		安 打		四 球		死 球		三 振		総 数		得 点		犠 牲 打		捕 手				
0.250		0.250		0.250		町田		9		0		8		2		1		2		0		0		101		小 柴				
三 塁 数		ス トライクアウト		野 手 数		審 判		湯 谷		小 柴		1		0		0		0		0		0		0		0				

チーム名稱		早稲田實業		攻守順		先守		試合開始		午前1時7分		試合終了		午後1時2分		試合時間		1時間53分		記録者		津田									
現塁	三塁	四死球	得点	三塁打	二塁打	安打	打数	失策	補殺	刺殺	選手名	一	二	三	四	五	六	七	八	九											
2	1	0	1	0	1	0	0	2	2	4	0	1	15	3	牧 口	1	1 ₁		1 ₁		3 ₁		1 ₁								
1	1	0	0	0	1	0	0	2	2	5	0	0	3	9	山 田	2	1 ₁		1 ₁		3 ₁		2 ₁	3 ₁							
1	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	3	1	1	高 橋	3	2 ₁		1 ₁		1 ₁		1 ₁									
0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	8	七 里	4	3 ₁		3 ₁		1 ₁		3 ₁									
1	0	0	0	0	0	0	1	1	4	2	3	0	5	小 林	5		1 ₁		1 ₁		2 ₁		1 ₁								
0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	3	2	平 山	6		2 ₁		2 ₁		3 ₁		1 ₁								
0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	7	佐 伯	7		3 ₁		3 ₁		1 ₁		2 ₁							
2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	5	2	4	深 田	8			1 ₁		1 ₁		1 ₁									
0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1	2	1	6	柴 崎	9			2 ₁		2 ₁		2 ₁									
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	合計	0	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
二 塁 数		打 数		守 備 数		投手名		回数		失 誤		安 打		四 球		死 球		三 振		総 数		得 点		犠 牲 打		捕 手					
0.228		0.228		0.913		高橋		8		4		9		3		1		3		0		0		140		平 山					
三 塁 数		ス トライクアウト		野 手 数		審 判		津 田		柴 崎		3		0		0		0		0		0		0		0					

四五七

神港は最初から意気軒昂、其の強猛な打撃は遺憾なく威力を發揮した。殊に山下の猛打振りは東都のファンを全く魅了した町田の投手振りも老巧であつた。之に反して早實は甚だ振はず、元氣者の高橋投手も夏に比して大いに出来が悪かつた。一體にしまつて居なかつたのは練習不足の結果か。ともかく運動場を持たぬ東都のチームは氣の毒である。技倆から見ても神港の勝は當然であらう。

最後の回なれば必死の意氣を以て立ち一死後佐伯一壘越の安打に出で深田の三脩に封殺されしもピンチヒッター一壘に安打し。牧口四球を利用して二死満塁、責任打者山田衆望を負ふて立ち、三壘を強襲せしも壘手巧みに止めて一壘に刺し、凱歌は遠征軍に上る。

概 評

共に東海に覇を競ふ中學チームの雄。可成歴史付の試合で今夏は愛知が惜しい所で打棄られて居る。技倆から云つても意氣込から見ても何とも云へぬ好手合せ。午前十時三十五分、山岡球審のブレーの聲と共に中村市長が吉例の始球式あり。戦端は開かれた。壘審川添氏。

経過

第一回(愛知先攻) 石田二壘を過らして出で服部のバントに過られしも以下二者凡退。

(静岡) 河島先づ四球を利し國友安打して幸先よかりしも塚本の捕手ゴロは先づ三壘に河島を刺し國友亦三壘よりの送球に二壘に刺され、あたり好機を失す。後福島右翼を過らせ、林死球に出でしも終に得點に至らず。實に静岡に取つてはあきらめられぬ所にて之が今日の敗因の一とも見られる。

第二回(愛知) 酒井四球、後二者凡死の後岡野安打に出で西村四球を利せしも石田三振して無爲。

(静岡) 吉田投手ゴロ、續く二者三振伊藤投手の腕冴えて見ゆ。

第三回(愛知) 一死後伊藤安打に出で水野の三匚に封殺酒井死球を喫せしも中島投匚に止む。

(静岡) 二死後塚本中左間に痛快なる二壘打を放せしも後援なし。

第四回(愛知) 鈴木遊二間安打に貫き岡野の犠打に送られ、西村の死後石田四球に出でしが服部の遊匚に石田封殺されて無爲。

(静岡) 三者凡退。

第五回(愛知) 一死後水野中左間を抜く三壘打に出で捕手の失に生還、最初の一點を奪ふ。酒井四球、中島の死後鈴木も四球

を利せしが酒井三盜せんとして刺さる。

(静岡) 三者爲すなし。

第六回(愛知) 岡野安打に出で西村のバントに送られ續く三者四球を選びて押し出しの一點を加ふ。水野三振。

(静岡) 二死後福島の中堅安打ありしのみ。

第七回(愛知) 二死後、左野安打に出でし鈴木は岡野の左越二壘打に一擧に生還。續いて西村左中間を破りて岡野を迎ふ。得點四を數へて勝敗の數定まりたるかの觀あり。

(静岡) 意氣更に上らず、三者凡死。

第八回(愛知) 流石に攻撃の手をゆるめて二死後水野安打せしのみ。

(静岡) 亦淺井三壘失に出でしも河島の遊匚に併殺せられ、國友投匚に死す。

第九回(愛知) 中島四球、鈴木の捕手ゴロに送られ岡野の三匚壘手惡投せしが後二者夫々内野手に名を爲さしめて終る。

(静岡) 緊揮一番憤起せしも伊藤の怪腕にひねられて空しく、遂に四對〇にて愛知大勝す。

概評

愛知は傳統的の元氣と投手の好投によつて終始、打撃に力を注ぎ吉田投手の不出來に乗じて堂々と勝利を占めた。伊藤水野の好バッテリーの働は素晴らしかつた。尙七・八・九の弱打者が大いに當つたのも愛知の大なる勝因である。静岡は第一回に好機を失つてから伊藤投手に制せられて全く打撃振はず、夏の健闘の面影を見る事が出來なかつたのは遺憾であつた。捲土重來を望むや切である。

内務省主催神宮競技大會
野球記録表 (大正十四年十一月)

中村市長

チーム名		愛知一中		攻守順		先攻		14年10月30日		於岡布		球場		審判		岡山山陽							
選手名	打席	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	打席	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
石田	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
服部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊藤	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水野	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
酒井	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中島	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴木	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡野	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西村	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投手	伊藤	0	3	1	1	6	0	0	0	9	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
捕手	水野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一塁	西村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二塁	服部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三塁	石田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本塁	中島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打点	0.873																						
守備率	0.979																						
投手	伊藤																						
捕手	水野																						
一塁	西村																						
二塁	服部																						
三塁	石田																						
本塁	中島																						

チーム名		静岡中学		攻守順		先守		試合開始		午前10時35分		午後12時40分		試合時間		2時間5分		記録者				
選手名	打席	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	打席	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
河島	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国友	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
塚本	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
林	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池上	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吉田	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
戸崎	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浅井	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投手	吉田	9	3	9	9	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
捕手	福島																					
一塁	池上																					
二塁	林																					
三塁	国友																					
本塁	河島																					
打点	0.200																					
守備率	0.959																					
投手	吉田																					
捕手	福島																					
一塁	池上																					
二塁	林																					
三塁	国友																					
本塁	河島																					

長野はよく整ったチーム、大連は荒削り乍ら元氣ある仲々の曲者まして多年大會に出場して場馴れて居る。夏は割に樂々と大連が勝つたが技倆伯仲にあるは衆目の見る所である。果然戦は稀有の白熱戦となり恐らく本年の神宮競技中の白眉であつたらう。球審水野氏壘審井上氏、午後零時三十分戦は開始せられた。

経過

第一回(長野先攻) 三者凡退。

(大連) 奥先づ内野安打に出で馬場の二壘ゴロに封殺されしも強打者櫻井痛快なる本壘打を飛ばして二者踊躍を生還、歡乎の聲は先づ大連軍に上る。後續二者凡退。

第二回(長野) 二者三振後竹内東條相次いで四球に出でしも山崎三振。

(大連) 小野木中堅安打に出で福島三振後二盗成らず。肥塚投捕に倒る。

第三回(長野) 二死後二木始めて中左間に二壘打せるも後援續かず。

(大連) 三者凡退。

第四回(長野) 小林遊二間の安打に續く長澤中左間に二壘打して走者三・二壘により意氣頓に揚る。投手いらつて三壘の走者をさうんと悪投し最初の一打を上げ。續いて竹内の遊撃安打に長澤生還竹内二盗せしも後者凡死して終る。同點となり興味愈々加はる。

(大連) 櫻井憤然として左野に安打し園城寺の三振後あせつて二盗せんとせしが成らず。沖左飛。

第五回(長野) 一死後二本の安打ありしのみ。

(大連) 二者三振後肥塚遊撃の失に出てしも杉浦投捕に死して入らず。

第六回(長野) 一死後竹内遊撃の失に出て二壘を盗まんとして刺さる。東條四球を得しも山崎三振。

(大連) 二死後櫻井三度安打して出て園城寺の中堅を抜く二壘打に一塁生還、園城寺は三壘を慾張つて中堅よりの返球に刺さる。大連一點を勝ち越す。

第七回 兩軍共に走者なし。

第八回(長野) 二死後長澤遊撃に安打せしも竹内ライナーをSSに得られて空し。

(大連) 二者小林投手に翻弄せらる。

第九回(長野) 若しこの儘終らんか長野は再敗の憂目を見ざる可らず、信州男兒結束して立つ。東條の遊捕奥惡投して一壘二壘を占め山崎に送られ大瀧の一壘本壘に投じて間に合はず東條生還。再び同点となる。佐々木の遊捕大瀧を封殺せしも二木死球尙好望なりしが山岸内野フライに倒る。

(大連) 一死後櫻井SSの暴投に一壘二壘を占めしが後續の二者凡飛球に死して愈々エキストラインニングに入る。

第十回(長野) 小林一壘を抜いて出て長澤内野安打を放ち頗る有望なりしが副島投手怪腕を振ひて後續三打者を辱りピンチを脱す。

(大連) 二死後肥塚内野安打に出て二盗せんとしてはさまれ線上に憤死す。

第十一回(長野) 一死後佐々木は列なる二壘打を左中間に放ち野手の三壘惡投に其儘本壘に入り貴重なる一點を擧ぐ、二木四球に出てしも二盗に倒れ山岸左飛に止む。

(大連) 思はぬ敵に勝ち越されて一同茲に愈々奮起し、ピンチヒッター小松遊撃に安打して出て奥の投捕野手撰擇となりて兩者生く。満場大いに湧く。馬場の一壘は二走者を三三壘に據らしめしが惜しや小松は三・本間にはさまれて死し強打者櫻井は四球に敬遠せられ奥と櫻井相呼應して鮮かなるダブルスチールを敢行せしも園城寺の遊捕は永しへに殖民地軍に利せず。長野軍榮ある凱歌を上げ。

概 評

息もつけぬ接戦で勝つて榮あり、敗けて亦榮ありと云ふべき試合であつた。絶えず壓迫して九分九厘まで勝と思つた大連軍が九回奥の思はぬ破綻から同点となり、爾後形勢一變長野軍の意氣の大いに上つたのは「試合の波」と云ふ點から考へて誠に興味深い。大連の櫻井の猛打は物凄く、東部のファンをうならせ、最後まで元氣に奮闘した。あまり始めに調子がよくて大連が稍安心したのも敗因の一だらう。長野の小林投手は終始よく健闘し、其のナインは眞面目に元氣に戦つてこの大敵を倒した。眞に意氣の發露である。いつも惜しい所で敗北する大連軍は全く御氣の毒と云ふより外はないが兩軍共にあれだけ戦へば男子の本懐で思ひ残す事はない。

大 會 競 技 神 宮 主 催 省 務 内
表 記 錄 球 野

(大正十四年十一月)

長野商業		攻守順		先攻		14年10月30日		於戸塚		審判		球木野		球木野			
打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守		
1	佐々木	1	S0	1	4-3	2		1	6-3	2	F-7	1		1	2-6		
2	二木	2	6-3	2		3		2		3	F-4	2		2	2-6		
3	山岸	3	F-7	3	F-7	4		3	F-6	4	S0	3		3	F-7		
4	小林	4	S0	4		5		4	S0	5	F-8	4		4	F-7		
5	長澤	5	S0	5		6		5	F-3	6		5		5	F-7		
6	竹内	6		6		7		6	2-6	7	L-6	6		6	S0		
7	東條	7		7		8		7	F-1	8		7		7	F-4		
8	山崎	8	S0	8		9		8	F-9	9	S0	8		8	S0		
9	大瀧	9		9					F-2			9		9	S0		
合計		0		0		0		2		0		0		1			
投手		小林		併投小林長沢		併投小林長沢		併投小林長沢		併投小林長沢		併投小林長沢		併投小林長沢		併投小林長沢	

第 二 日 (十月三十一日)

長野商業對愛知一中(早大球場)

一方に信州男児の意氣あれば一方には傳統に育くまれた一中魂がある。一方にむらのない打力とそつのない守備を有すれば一方は絶好のバッテリと獨特のねばりを有して居る。長野と愛知も好球家の見逃す能はざる好取組だ。午前十時十分柳田氏球審杉田氏壘審の下に戦の幕は切つて落された。

經 過

第一回(長野先攻) 二者相次いで三振に倒れ山岸左野に安打せしも小林三匍に了る。

(愛知) 石田中堅安打に出て服部のバントに送られ伊藤四球を得しも水野のライナー三壘手の功に歸し、石田も二・三間にはなされて死す。

第二回(長野) 二者三振後東條中左間の安打に出て二盗せしも投手の牽制球に二壘に死す。

(愛知) 坂井内野安打に出て中島左翼越の二壘打を放ち走者三・二壘によつて長野軍危機にひんす。されど鈴木木の遊匍に坂井本壘に倒れ岡野投手を襲つて却つて中島を再び本壘に憤死せしめ西村三振して得點なし。

大連商業		攻守順		先守		14年10月30日		於戸塚		審判		球木野		球木野			
打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守	打	守		
1	奥	1	4-6	1	F-2	2		1	1-3	2	S0	1		1	S0		
2	馬場	2	1-3	2		3		2	6-3	3		2		2	5-3		
3	櫻井	3		3		4		3	2-6	4		3		3			
4	圓城寺	4	4-3	4	S0	5		4	8-3	5		4		4	F-7		
5	汗	5	6-3	5	F-7	6		5	4-3	6		5		5	F-6		
6	小野木	6		6		7		6	2-6	7		6		6	S0		
7	副島	7	S0	7		8		7	S0	8		7		7	F-4		
8	肥塚	8		8		9		8	L-3	9		8		8	3-4		
9	秋小	9		9					5-3			9		9	3-6		
合計		2		0		0		0		1		0		0			
投手		副島		併投副島秋小		併投副島秋小		併投副島秋小		併投副島秋小		併投副島秋小		併投副島秋小		併投副島秋小	

第三回(長野) 三者伊藤に惱まされて壘に出づる能はず。

(愛知) 石田先づ四球を選び服部の三壘塁手二壘に悪投して両者生き、伊藤の死後水野二壘に安打して石田生還、先づ一點を先取す。坂井中堅飛球に倒れ、この間本壘を衝きし服部は野手の好投のため三・本間にはさまれて死す。

第四回(長野) 伊藤の怪腕に全く封せられ。

(愛知)も三者凡退。

第五回(長野) 憤起し長澤四球を選び、つよく竹内遊・三間に安打して機會を作り東條の犠打に走者三・二壘に據る。此の時投手牽制球を三壘に暴投して小林生還。續く山崎一壘を抜く安打して竹内生還。大瀧の三壘山崎を二壘に封殺せしも佐々木二木續いて左野に安打す。此の時大瀧長驅本壘に殺到せしも惜しくも寸前に刺さる。

(愛知) 一點を越されて振り立ち西村四球に出て石田遊撃前に内野安打し服部のバントに走者三・二壘を占む。伊藤の中堅飛球西村本壘に迫りしも中堅の好投に本壘に憤死す。

第六回(長野) 山岸劈頭左翼の右に二壘打し小林四球、長澤のバントに二者壘を進め有望なり。されど捕手よりの牽制球に山岸、うまく殺され、竹内三振して、可惜好機を逸す。

(愛知) 三者凡死す。

第七回(長野) 一死後山崎遊、三間の安打に出ても大瀧の遊匍に二壘に封殺され佐々木又もやSSを襲つて大瀧を二壘につめ殺す。

(愛知) 一死後岡野四球を利せしのみ。

第八回(長野) 三者凡退。

(愛知) 如何にもして一點を取返さんと服部四球に出て伊藤安打に續て頗る有望なりしが水野の遊匍大瀧巧みに捕へて服部を三壘に殺し、坂井中飛後中島死球にて二死満壘となり活氣場に滿つ。されど責任打者鈴木空しく三振して好機去る、第九回(長野) 三者無爲なるに反し。

(愛知) 獨特のネバリの威力を今ぞあらはせとばかりに岡野先づ四球を取りしが西村バントを再三失敗して倒れ、石田、服部共に外野に大飛球を放ちしが長野の外野手巧みに之を捕へて萬事休止、長野は二日續けて大接戦に快勝す。

概 評

愛知は全く惜しい敗北をした。再三好機をつかみながら長野の巧守のために得點の機を失はしめられてあきらめきれぬ結果となつた。全く運である。長野は伊藤の怪腕に苦しめられ乍ら第五回の好機をうまく物にして一舉奪い二點を占め再勝の好運を勝ち得た。どちらも真面目な心持のよいチームであつて敗れたりと雖愛知のバッテリーの働は實に鮮かであつた。

大倉競技神宮主催省務内

野球記録表

(大正十四年十一月)

チーム名		攻守順		先攻		14年10月31日		於戸塚球場		審判		球柳田		田松出												
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	選手名	打	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十					
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	佐々木	1	S 0														
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	二木	2	S 0			6-3											
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	山岸	3	h			S 0		2-5									
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	小林	4	5-3			S 0											
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	長澤	5	S 0														
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	竹内	6	S 0														
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	東條	7	1-6														
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	山崎	8	S 0														
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	大瀧	9	6-3														
合計											0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投手											小林	9	0	6	7	0	3	0	0	105						

神港商業高松商業(駒澤球場)

之こそ事實上の優勝戦としてファンの期待の實に大であつた試合である。高松は既に今秋再度神港に破れて居る。しかし夏の堂々たる戦振から推せば無論高松に團扇の上がる勝負である。しかも僅か二三ヶ月の間とは云へ今は夏とは全然異つた精神状態がチーム全體を左右して居る。若し時期くによつての出来不出来をのぞいて單に技の上から判断すれば共に大學チームの壘をも摩さんとする横綱同士で、龍虎相争ふの概がある。湯淺球審のブレイの聲は萬人の異常なる期待の中にほがらかに響き渡つた。時に十時三十五分高松の先攻である。壘審は谷澤氏。

経過

第一回(高松) 兒島先づ左翼の失に出ても堀の二盗捕に封殺せらる。堀二盗、本田の投捕に三壘に達せしも宮武左翼飛球に死して得點なし。

(神港) 最初より元氣よく小柴四球島の三匍に送られ町田三壘を抜く安打に小柴生還。ベープ山下は痛快極まるホームランを右翼の見物席にたゞき込んで二者相次いで生還し、宮武ノックアウトせらる。本田投手となり宮武一壘を守る。以下二者凡死せしも三點を先取して神港の意氣正に天を衝く。

チーム名		攻守順		先守		14年10月31日		於戸塚球場		審判		球柳田		田松出												
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	選手名	打	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十					
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	石田	1	h														
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	服部	2	1-3														
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	伊藤	3	h														
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水野	4	5-5														
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	坂井	5	6-2														
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	中嶋	6	F-8														
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	鈴木	7	h														
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	岡野	8	h														
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	西村	9	S 0														
合計											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
投手											伊藤	8	1	9	2	0	11	0	0	130						

第二回(高松) 三者凡死。

(神港) 一死後濱崎の失に出て柵本中堅安打小紫四球に満塁となり高松再ピンチに襲はる。しかし島の投手強襲は却つて濱崎を本塁に殺し己れも併殺を喫して得点なし。

第三回(高松) 無爲。

(神港) 町田中堅に安打し、山下一匁に倒れしも久保の二塁越安打、岡の二匁に町田生還一點を増す。此の回高松の二塁手井川病氣して河津と交替す。

第四回(高松) 三者頗る振はず。何となく全軍元氣銷沈す。

(神港) 更に攻撃をゆるめず、濱崎三塁に安打し柵本の死後、小紫中堅安打島三振の後、見事なるダブルスチールを敢行し濱崎は更にホームを奪取す。町田三度安打を右野に放ち小紫生還。二點を加へて六點となり大勢決したるものゝ如し。

第五回(高松) 憤起し河津四球、三木三匁にて死後、多胡中堅に適時安打を放ち河津生還。一點を返す。

(神港) 三者凡退。

第六回(高松) 町田の稍疲れたるに乘じ二死後、堀四球を利し、本田宮武連続安打して堀得点す。

(神港) 濱松安打せしも後援なし。

第七回(高松) 勢に乗じ、一死後、多胡水原相次いで安打、神田の死後、兒島の投匁町田失して多胡生還。計三點。

(神港) 強打者三人枕を並べて討死。意氣ゆるみし形あり。

第八回(高松) 敵失を利して走者を出せしも點を得るに至らず。

(神港) 岡遊撃の失に出て池田内野フライ、濱崎の二匁は岡を封殺、柵本よく中堅に安打せしも小紫投匁に倒れて得点なし
第九回(高松) 茲を先途ときはいしも町田の怪腕に苦められ多胡三匁、水原ライトフライ、神田三匁、夫々敵手の功に歸し神港堂々たる勝利を博す。

概 評

士地不慣其他の爲か高松は何となく元氣がなかつた。正捕手井川の病氣も大いに全體に影響を與へた事であらう。宮武は肩が疲れて居る上神港は其の球筋をよく承知して居るので劈頭大打撃をうけた。本田之に代つて中々よくやつたが神港の猛打は防ぎ切れなかつた。しかしベープ山下を料理するあたりに凡ならざる閃きは見られた。神港は秋の小手調に勝つて自信あつてか最初より相手を呑んで居た。町田も相應疲勞して居乍ら敵の弱をたくみについて老巧振を發揮した。山下の第一回のホームランは驚くべきもので、あれが中學生かと江戸つ子の膽玉をえぐつた。兎も角神港の打撃はどこからでも芽を出す可能性がある上に山下のやうな超下級が控えて居るので相手の投手は容易じやない。今日の出来ては之が順當だらう。兩チーム共慶應のコーチなので何と云つても敵愾心が割引せられ見物には一寸物足りない思がする。

大日本神宮競技主催省務内
野球記録表

(大正十四年十一月)

チーム名稱		高松商業		攻守順		先攻		14年10月31日		於 駒澤球場		審判		湯谷		澤澤									
打	守	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二	三	四	五	六								
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
6	2	2	3	0	3	0	0	5	3	3	10	24	合計	0	0	0	1	1	2	1	3	0	0	0	0
二重		打撃率		守備率		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手	
山下		15%		91.9%		町田		9		0		5		3		0		2		0		0		100	
三重		スフスフス		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手	
町田		第一回久保打者		時宮		田本		田本		田本		田本		田本		田本		田本		田本		田本		田本	
三重		スフスフス		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手	

第三日 (十一月一日)

神港商業對長野商業 (早大球場)

一は神港の覇者、他は信州の雄、神聖なる神宮競技の最優勝を競ふべき榮ある勇士は各自必勝を誓ひつゝ、戸塚原頭に立つた。朝來泣き出しさうだった空は遂に無情にも細雨を降らして切角の感興を殺いだるが時日の許さぬ點からどうしても試合を決行せねばならなかつた。「雨をおかしてのゲーム而も尤も大切な試合故若し天候不良に陥つてゲーム續行不能となりし時はよし五回を完了し居るも九回を完了せざればゲームとす」と云ふ特別規定を設けて兩軍の承認を経、悲壯なる大決戦が開かるゝ事になつた。球審原氏壘審永田、水谷の二氏十時四十五分ブリーの聲は雨にしめつて、場内に響いた。

経過

第一回(長野先攻) 三者凡退。

(神港) 小柴例によつて巧みに四球を取り鳥三振の後町田遊、二間を破つて二壘打を放つ。續く山下は四球に敬遠せられ久保は内野飛球に死せるも岡絶好の三壘打を中、右間に飛はして三者替を並べて生還。誠に此の一打こそ本日の勝敗の分岐點であつて功正に一級に値す。池田の遊捕野手雨の爲に失して岡生還。池田は二盗に死せしも既に四點を先取して意氣甚だ昂る。

第二回(長野) 二死後東條投手を抜く安打に出てしも山崎中飛に死してスタンディング。

第三回(長野) 二死後二木三壘を襲ふ安打に出てしも二盗に失敗す。

チーム名稱		神港商業		攻守順		先守		試合開始		平均10時35分		試合時間		1時間45分		記録者		岩澤												
打	守	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八											
1	1	0	2	0	2	0	0	1	3	1	1	2	小柴	1	0	0	0	0	0											
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	8	島	2	1											
1	0	0	0	2	0	0	0	3	3	4	1	3	0	1	町田	3	0	0	0											
0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	4	0	0	16	3	山下	4	0	0	0											
1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	4	1	4	久保	5	0	0	0											
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	3	7	岡	6	0	0	0											
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	3	2	6	池田	7	0	0	0											
1	2	0	0	1	0	0	0	2	2	4	0	3	1	5	濱崎	8	0	0	0											
1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	0	1	9	榎本	9	0	0	0											
3	4	3	2	0	6	1	0	9	10	35	4	14	27	合計	3	0	3	1	4	2	0	6	0	6	0	6	0	6	4	6
二重		打撃率		守備率		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手		投手						
本田		28.6%		91.1%		多胡		2		2		8		1		0		3		0		0		0						
三重		スフスフス		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手		野手						

(神港) 島中堅を抜く二壘打に出て町田の死後山下は再び敬遠主義の四球を得又もやチャンス来るやも知れずと思はれしが久保の遊働島を三壘に封殺し岡中飛に倒れて得點無し。

第四回(長野) 一死後小林四球に出てしても後の二者凡死して無爲。

(神港) 池田遊撃安打に出てたるが以下三人皆飛球を打ち上げて空しく往生。

第五回(長野) 二死後大瀧中堅に安打せしも佐々木のライナー投手のグラブに収りて、空し。

(神港) 三者凡退。雨の爲に稍だれ氣味なり。

第六回(長野) 三者凡退。(神港) も敵失により一走者を出せしのみ。雨益々滋し。

第七回 兩軍共に走者無し。

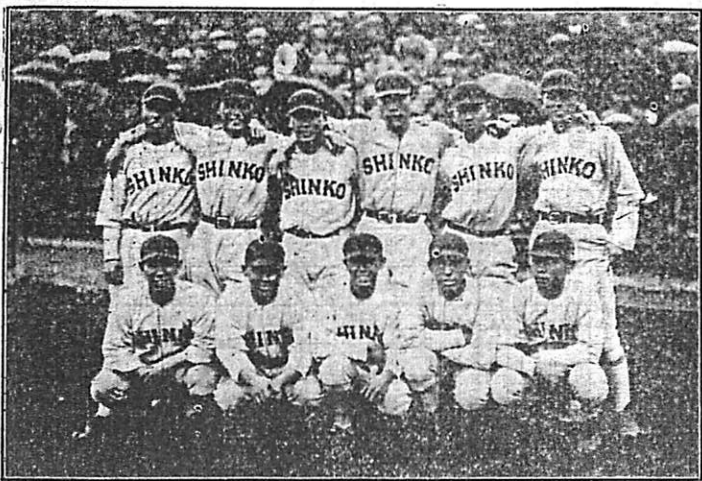
第八回(長野) 無爲。

(神港) 一死後山下安打を一壘側に放ちて出て久保の死後岡の安打に生還。池田、續いて三壘を破つて出てしも岡一舉三壘に至らんとして左翼よりの送球に刺さる。

第九回(長野) 最終の攻撃なり。奮起せざる可らず。果然信州男兒は立てり。二木先づ四球に出て山岸中堅に安打し二木は三壘に至る。山岸二盗せんとし捕手のためにうまく刺されしも小林長澤連續して安打を放ち二木生還。惜しむべし、此の元氣今少しく前に出てしならば更に波瀾を描きしならんに。竹内投捕に死し、東條懸命の一打もあはれ三壘手の功に歸して神港軍二年振りに宿志を達し、六大學リーグ寄贈の美麗なる優勝旗は名譽ある證狀と共に安部顧問の手より神港ナインに授與せられぬ。

概 評

あの無理な天候の下に天下分目の試合をせねばならぬ兩軍戰士の苦衷は充分に御察しする。主催者側としては、止むを得ないとは云ひ條申譯がない氣がした。兩軍の選士が心よく健闘せられた事は誠に美しいスポーツマン、スピリットの發露であつて僕は特に感謝にたへぬ。勝敗は順當の一語につきる。打撃の強い神港は最初に敵に致命傷を與へて樂に戦つた。昨日と同じ筆法である。若し天候がよかつたならば信州軍は得意のネバリを以て今少し手強く攻めたらうが何と云つてもあの雨がうらめしい。しかし最後の安打連發は誠に彼等の意氣を示したものであつてあの意氣あつてこそ、敗れて尙餘榮あるナインと云へよう。神港の此の名譽ある優勝は昨夏の大會以來不運に泣き乍ら切瑳琢磨した努力の結果であつて吾人は之を思ふ時神港軍の爲に喜びの情に堪へぬのである。



多年度の宿望遂に成り、中等学校の顧問を兼ね、六大學寄贈の優勝旗を手にし、神港ナイン

內務省主催神宮競技大會

野球記錄表

(大正十四年十一月)

チーム名稱		神宮商業		攻守順		先攻		14年11月1日		於早大球場		審判		原田、水谷															
二遊	三遊	捕	本塁	二塁	安打	打	失	捕	刺	守	選手名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十								
1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	佐々木	1-3 1		S0 2		L-1 3		F-8 3											
0	0	0	0	0	1	1	3	0	2	4	二木	5-6 2-3		2-6 3-6		6-3 1					4-0 1								
0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	7	山岸	4-5 5		F-9 1		6-3 2					2-4 1								
0	0	0	0	0	1	1	3	1	6	0	小林	5-3 3				L-3 3					1-0 0								
0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	3	長澤		S0 1		S0 2		F-7 1				1-0 0								
0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	竹内		S0 2		4-3 3		5-3 2				1-3 2								
0	0	0	0	0	1	1	4	1	5	2	東條					L-3 1		L-3 3			5-3 3								
0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	山崎		F-8 8			L-1 2		F-8 1											
0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	大瀧			L-3 1							S0 2								
合計											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
打撃率		守備率		投手名		回數		失打數		安打		四球		死球		三振		暴投		エラー		投球數		投手名		總球			
18.8%		93.2%		小林		8		4		7		4		0		4		0		0		113		二木		0			
野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役			

チーム名稱		神宮商業		攻守順		先守		仕合開始		午前10時45分		仕合時間		2時間5分		記録者														
二遊	三遊	捕	本塁	二塁	安打	打	失	捕	刺	守	選手名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十									
0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	2	小柴	5-6 3	S0 1		F-9 3		6-3 2													
0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	島		S0 1		6-5 2-6		L-3 1		S0 3											
0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	11	町田	1-0 4		F-8 1		L-3 2					4-3 1									
0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	12	山下	1-0 4				F-9 3					1-0 0									
0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	1	久保	F-6 2					5-4 1-5				5-3 2									
0	0	0	0	0	1	0	1	2	4	0	岡			F-8 3			5-4 2-5				7-5 3-4									
0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	2	瀧田	2-6 3-6																		
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4	濱崎		5-3 1		F-8 1		5-3 3													
0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	杉本		2-3 2-8		F-6 2						S0 1									
合計											4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
打撃率		守備率		投手名		回數		失打數		安打		四球		死球		三振		暴投		エラー		投球數		投手名		總球				
23.3%		97.9%		町田		9		1		9		1		1		5		0		0		111		小柴		0				
野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役		野手役				

大正十五年六月三日印刷
大正十五年六月十日發行

内務省衛生局

東京市芝區新櫻田町十九番地

印刷者 松本貞吉

川崎市堀川町四十二番地

印刷所 金洪舎川崎工場